ジャマイカ政治・経済月間情勢（１１月）

要　旨

内政では、与党 JLP（ジャマイカ労働党）党大会が開催された。外交では、ホルネス首相が中国を訪問し、両国の協力関係を強化することで同意した。一方、ジャマイカと中国の関係加速を巡って、ジャマイカに対し当地米大使が中国への牽制を行う発言を繰り返した。

内　政

（１）JLP 党大会

【２４日】JLP 党大会が開催され、チャン国家安全保障大臣（党事務局長）は次の第７６回総選挙において JLP は４５議席を目指すことを誓った。また、ホルネス首相は二期連続して政権を維持する準備ができている旨述べた。

・グレナダからミッチェル首相、セント・クリストファーネービスからパウエル国民行動党議長が出席し、ホルネス首相のリーダー性はカリブコミュニティーに欠かせないと演説した。

・ホルネス首相は、ジャマイカは反汚職に対するフレームワークが立法的、制度的に他のカリブ諸国と比較して発展していると述べた。

（２）その他

【８日】グローバル・ジャマイカ・ディアスポラ委員会候補者登録が行われている。２１日から１２月１５日までウェブサイト上で投票が行われ、２８名の委員が選ばれる。スミス外務大臣は同委員会が開放的な組織となると期待を寄せた。

【２６日】ホルネス首相は下院議会にて、翌年三月末までに政府は新たな国民 ID 法案を提出することを報告した。

経　済

【１１日】IMF のジャマイカに対する予防的スタンドバイ・プログラムは、１０日に終了したものの、IMF は引き続き今後２年間、技術支援やキャパシティ・ビルディング支援などを行う旨明らかにした。

【１６日】ホルネス首相は、中国湾岸エンジニア会社（CHEC）が建設を行う南東海岸高速道路改修計画の起工式に出席した。

・ショー産業・商業・農業・漁業大臣は、タピア駐ジャマイカ米国大使と会談し、ジャマイカと中国の関係は地政学的なものではなく、貿易に焦点を当てている旨説明した。

【２０日】下院行政歳出委員会においてホワイト・ジャマイカ観光委員長は、数年後には中国、日本、インドの観光市場を開拓したい旨発言した。

・世界銀行は、ジャマイカのマングローブによる海岸保全の取り組みに関する評価レポートにおいて、ジャマイカが自然保護の分野で世界でリードしていると評価した。

【２７日】ウィリアムス科学・エネルギー・技術大臣は、国家エネルギー政策策定１０周年記念シンポジウムにおいて国家エネルギー政策について、再生可能エネルギーやエネルギー効率などに新たな目標を設定して改定する予定であると発表した。

外 交

（１）バズ無任所大臣他に対する米国査証の無効化

【１日】チャン国家安全保障大臣は、米国政府がバズ無任所大臣（土地・環境・気候変動・投資担当）に加え、パウエル PNP 副党首及び複数のジャマイカ国防軍メンバーに対する米国査証が無効化されたとの通知を受けた旨発表した。

【２日】バズ無任所大臣は、米国による査証無効化の決定が覆されないのであれば閣僚を辞任する用意がある旨述べた。

（２）ホルネス首相の中国訪問

【３～９日】ホルネス首相及びスミス外務大臣は、第２回中国国際輸入展覧会（CIIE2019）に参加し、開会式にてホルネス首相はジャマイカに進出している中国企業１６社が既に３億米ドル以上の直接投資をしていると強調した。

・ホルネス首相と習近平国家主席は会談を行い、友好的パートナーシップをより戦略的な関係に高めることで合意した。

・ホルネス首相と李克強首相の間で投資・教育・スポーツ・気候変動などの分野において二国間協力を促進する内容の文書が署名された。

・ホルネス首相及びスミス外務大臣は、ファーウェイ本社を訪れ、同社の技術開発力に高い関心を示した。

【１２日】Tian Qi 駐ジャマイカ中国大使は、ホルネス首相の訪中を受け、ジャマイカと中国の文化や観光、スポーツ面での交流が更に発展することを望んでいる旨発言した。

【１９日】ホルネス首相は、中国訪問を「全く新しい経験（eye-opening experience)」であったと評価し、新たな融資プログラムはないが投資や貿易における更なる関係強化を目指すことで合意したと述べた。

（３）当地米大使の発言

【６日】ミード・ジャマイカ軍参謀総長及びフォラー米国南部司令部司令官は、共同プレスブリーフを行い、その中でフォラー司令官は、中国・キューバ・ベネズエラは、ジャマイカ及び米国と同じ価値観を共有していないと述べた。

【７日】６日のフォラー司令官の発言に対し、在ジャマイカ中国大使館は、中国がジャマイカやカリブ諸国に行ってきた協力に対する中傷であると強く反発した。

【１０日】タピア駐ジャマイカ米国大使は、フォラー司令官が述べたことは米国大統領、副大統領、国務長官、そして自らの声を代弁していると述べた。
【１１日】タピア駐ジャマイカ米国大使は、ジャマイカは中国が天然資源採掘を中心に行っている外交に気をつけるべきだと述べた。
【１２日】タピア駐ジャマイカ米国大使は、なぜジャマイカ当局が非合法な銃器の流入を食い止められないのかと疑問を投げかけ、米国を出港する正規のコンテナは厳格な検査が行われており、犯罪組織により米国やカナダにおいて購入される銃器は別のルートでジャマイカに持ち込まれていると述べた。
【２２日】タピア駐ジャマイカ米国大使とチャン国家安全保障大臣は、航空安全を強化する協力協定に署名した。
【３０日】タピア駐ジャマイカ米国大使は、モンテゴ・ベイ商工会議所の会合に参加し、ジャマイカは米国への製品の輸出を増やすべきだと述べた。

（４）その他
【７日】ボッシュ駐ジャマイカ・スペイン大使は、英国が EU を離脱することになった場合、スペインがジャマイカから EU への輸出入のハブとなる可能性を示唆した。
【１２～２７日】グランジ文化・ジェンダー・娯楽・スポーツ大臣は、パリで行われた第４０回ユネスコ総会の副議長に選出された。
【２９日】ロンドンで開催された国際海事機構（IMO）総会にて、ジャマイカが IMO 理事国（任期は２０２１年までの２年間）として再選した。
・ホルネス首相及びスミス外務大臣が、スペイン語を優先第二外国語とすることがラ米とカリブ諸国の関係強化に繋がると述べたことを受け、ベルナレス駐ジャマイカ・チリ大使は、無料スペイン語授業の提供開始を発表した。

日・ジャマイカ関係

（１）草の根・人間の安全保障資金無償協力
【１日】在ジャマイカ日本大使館は、フェア・プロスペクト公立小学校に対し、新校舎を供与し、引渡式が実施された。
【７日】在ジャマイカ日本大使館は、ハノーバー教育協会に対し、研修施設を供与し、引渡式が実施された。
【１４日】在ジャマイカ日本大使館は、ニュー・フォレスト公立小学校に対し、通学バスを供与し、引渡式が実施された。
【２２日】在ジャマイカ日本大使館は、ライッソンス公立小学校に対し、通学バスを供与し、引渡式が実施された。

【２７日】在ジャマイカ大使館は、テイシャス・ゴールディング公立高校に対する通学バスの供与を決定し、贈与契約の署名が行われた。

（２）その他

【１５日】「Bolt Mobility（ボルト・モビリティー）」の共同出資者であるウサイン・ボルト氏は、電動キックボードの日本市場参入を表明した。

この資料は、ジャマイカの政治・経済情勢を中心に各種報道・発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。
記載事項は、在ジャマイカ日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。